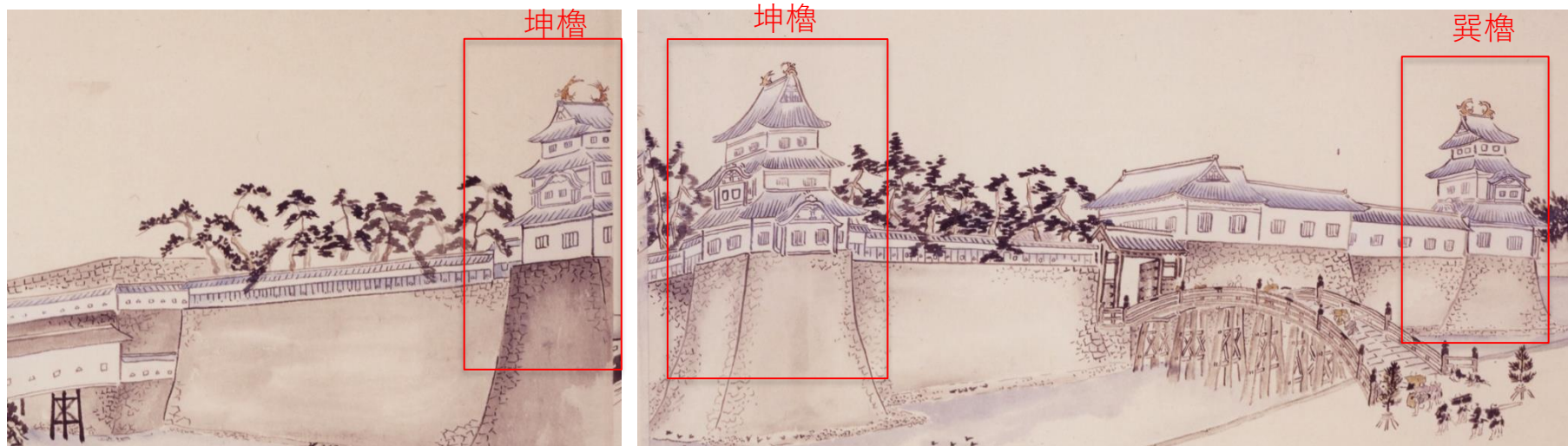


坤櫓等に関する調査概要

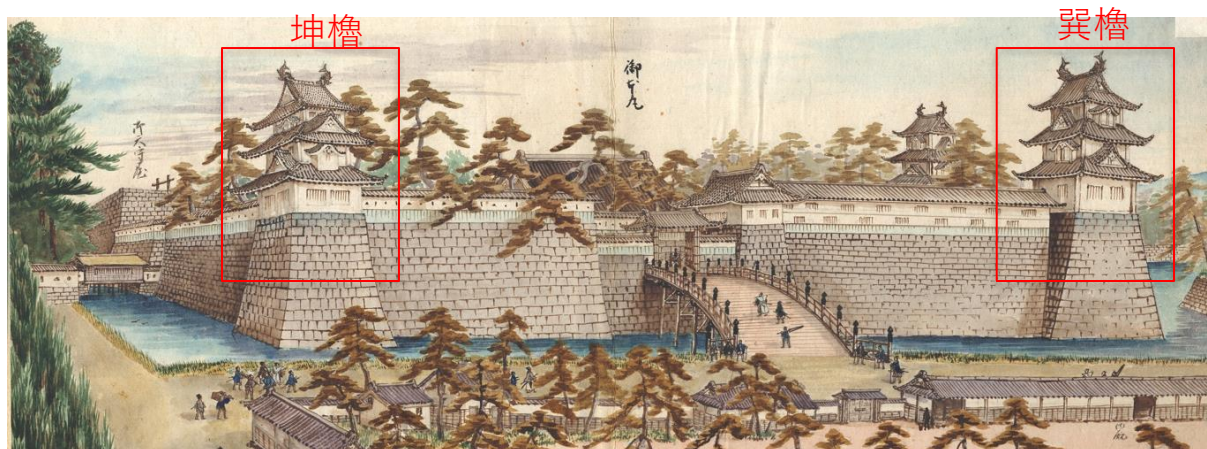
- (1) 坤櫓等の史料・文献調査
- (2) 坤櫓等の埋文調査

(1) 坤櫓等の史料・文献調査

坤櫓の形状については、江戸～明治時代の絵図や文献では確認されていたものの、史料によって建物の向きが異なるなど、形状を特定する根拠が不十分であったため、令和4年度に史料・文献調査を実施



「福井城郭各御門其他見取絵」 (越葵文庫 福井市立郷土歴史博物館保管)



「福井温故帖」 (越葵文庫 福井市立郷土歴史博物館保管)

古文書調査

(1) 櫓の築造や構造

- ・築城当初の坤櫓および巽櫓は3階建て
- ・寛文9年(1669年)の大火で焼失し、その後、両櫓とも再建
- ・再建後の坤櫓・巽櫓は、3重、石瓦葺き、壁は土壁塗り
- ・両櫓は明治10年に撤去

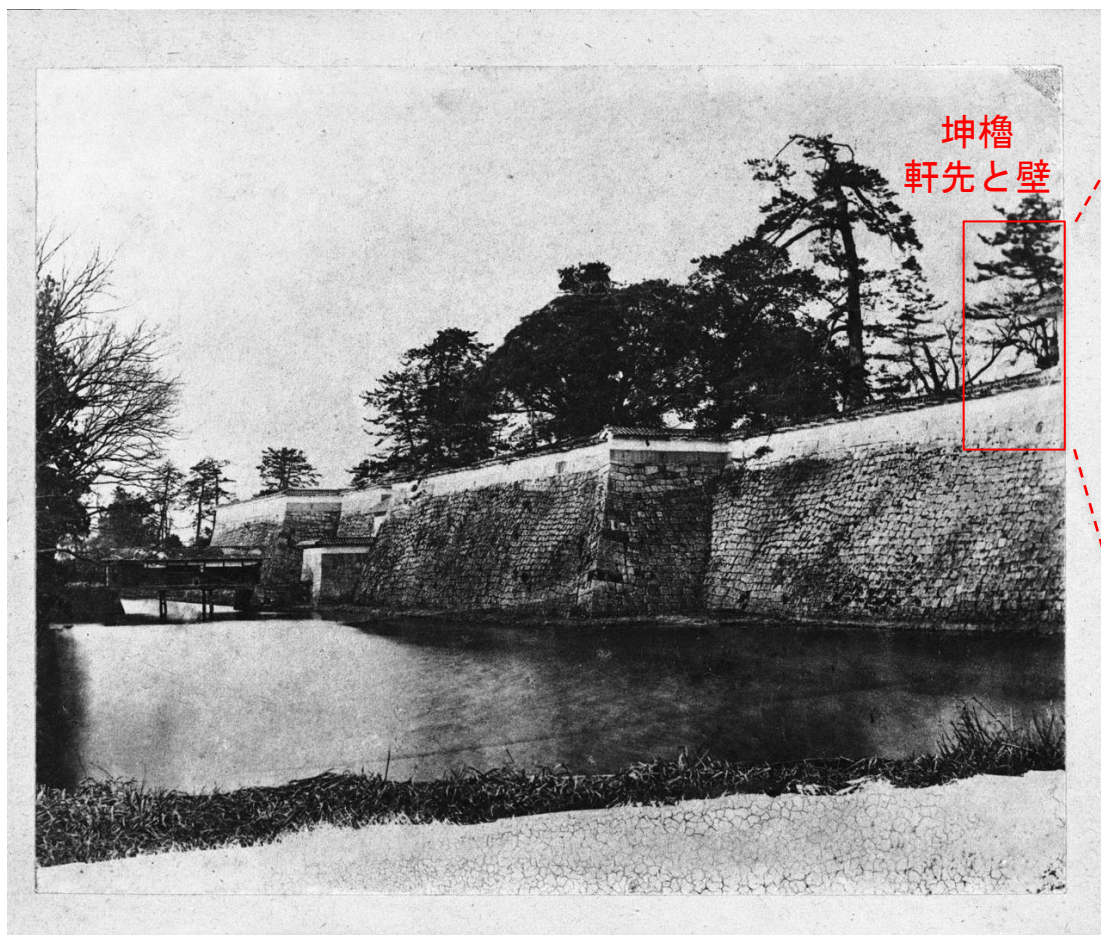
(2) 櫓の使われ方

- ・坤櫓および巽櫓は、幕府役人や藩主によって城下の物見のために使用
- ・坤櫓は、書物や証文の保管場所としても使用
- ・巽櫓は、台所道具や塩辛・昆布などの食料品の保管場所としても使用
- ・櫓の入口は、坤櫓は北と東の2ヶ所、巽櫓は西に1ヶ所

(出典：松平文庫、福井藩関係の刊行書籍など)

古写真調査 1

古写真を精緻に確認した結果、坤櫓の1重目の屋根の軒先と壁が写っていることが確認され、1重目の高さを知る手掛かりが得られた。



坤櫓
軒先と壁



1重目の
屋根の軒先
(石丸瓦)

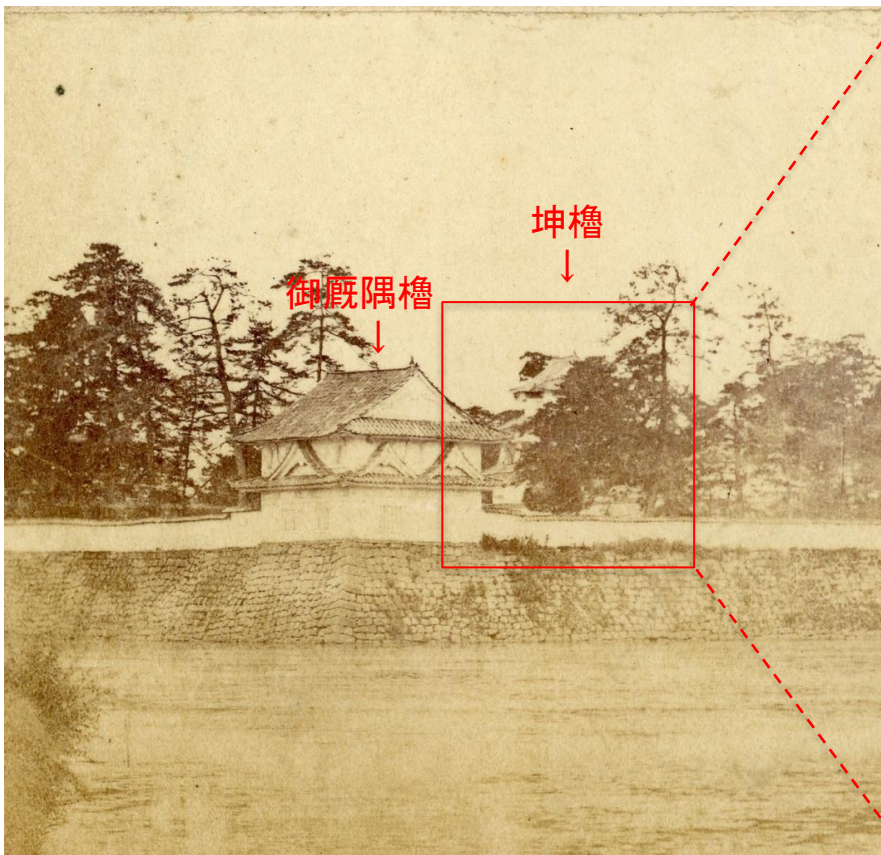
白壁

「旧福井城本丸御廊下橋之遠望」 (福井市立郷土歴史博物館所蔵)

古写真調査 2

木の陰に坤櫓が写っており、3重櫓であったことや入母屋造りの石瓦葺きで、東西方向に棟を置いており、巽櫓を90度回転させた向きであることが確認された。

巽櫓と同様に2重目に千鳥破風、3重目に唐破風造りの屋根を持つ出窓が確認された。



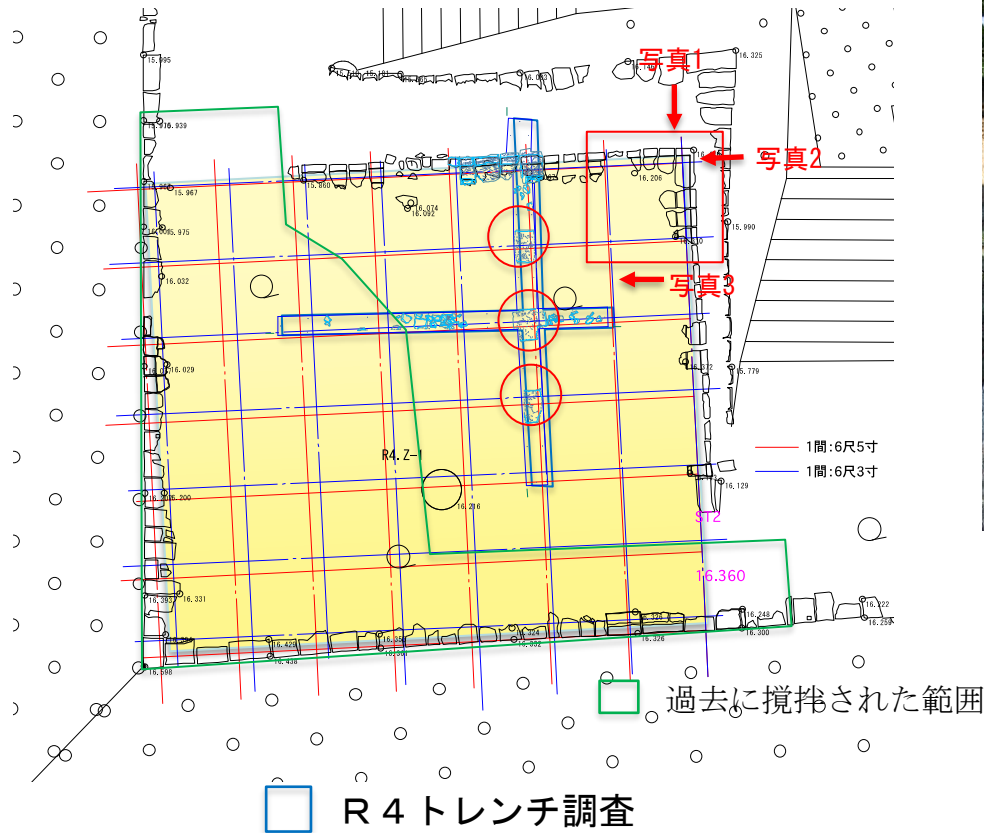
「野路家写真帖八拾四番左」 (福井市立郷土歴史博物館所蔵)

【確認できる事項】

- ・ 東西棟の入母屋屋根
- ・ 2重目南面に比翼千鳥破風
- ・ 3重屋根石瓦葺
- ・ 階高の高い2重目
- ・ 3重目南面に唐破風造出窓
- ・ 1重目に2段の格子窓?

(2) 令和4年度 埋文調査 (トレンチ調査)

【坤櫓】



想定される坤櫓の一階の大きさ
(南北6間、東西7間)



写真1



写真2



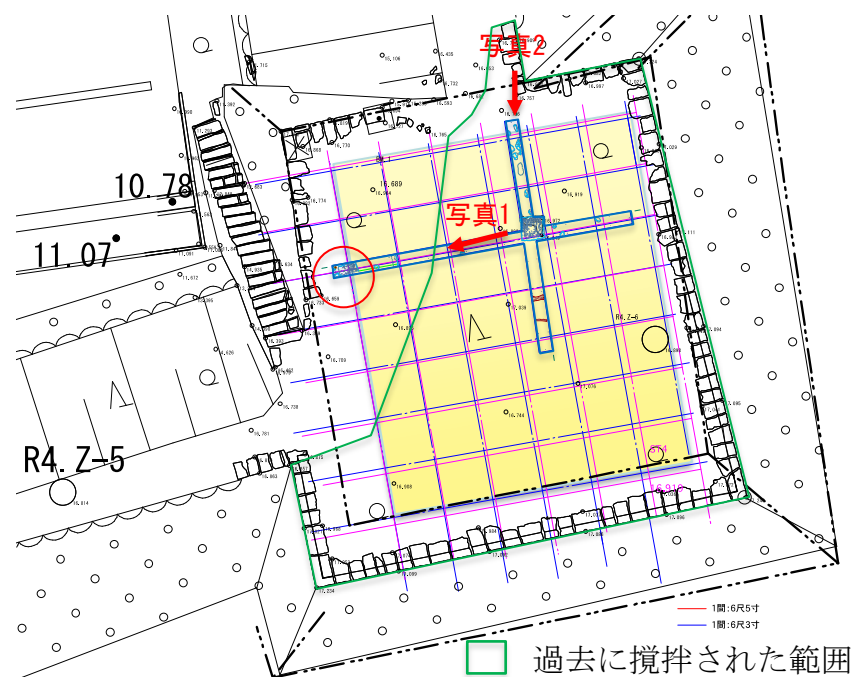
写真3

櫓の大きさ等を確認するため、トレンチ調査を実施

- ・ 礎石の位置を確認 (6尺5寸間隔?)
- ・ 過去に工事で攪拌された範囲を確認

(2) 令和4年度 埋文調査 (トレンチ調査)

【異櫓】



想定される異櫓の一階の大きさ
(南北7間、東西6間)



写真1



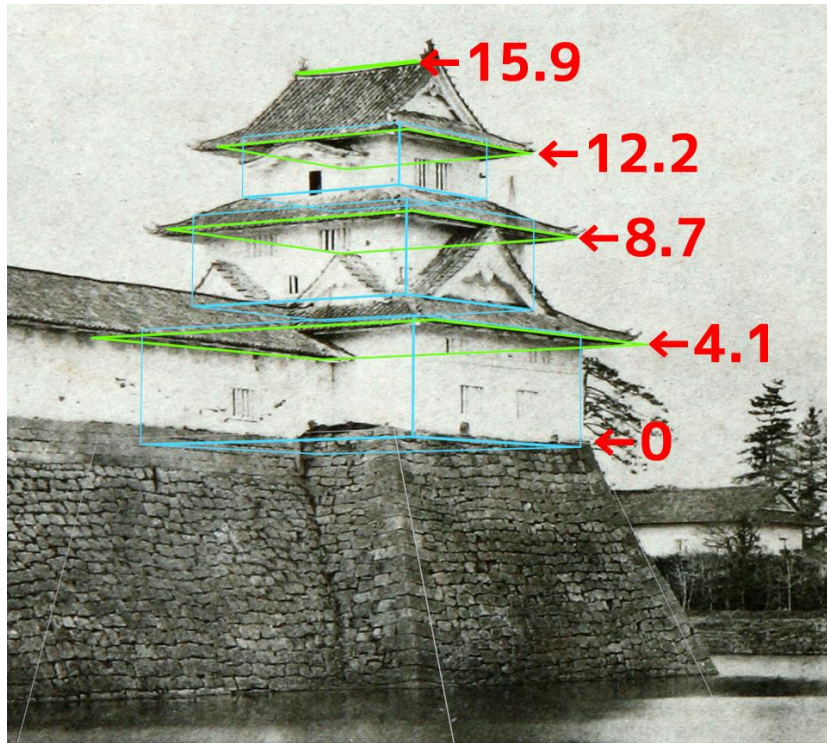
写真2

- 坤櫓に比べて、過去に工事で攪拌された範囲が大きいことを確認
- 焼失後に再建された坤櫓と異櫓が同じ大きさだったと考えられる。

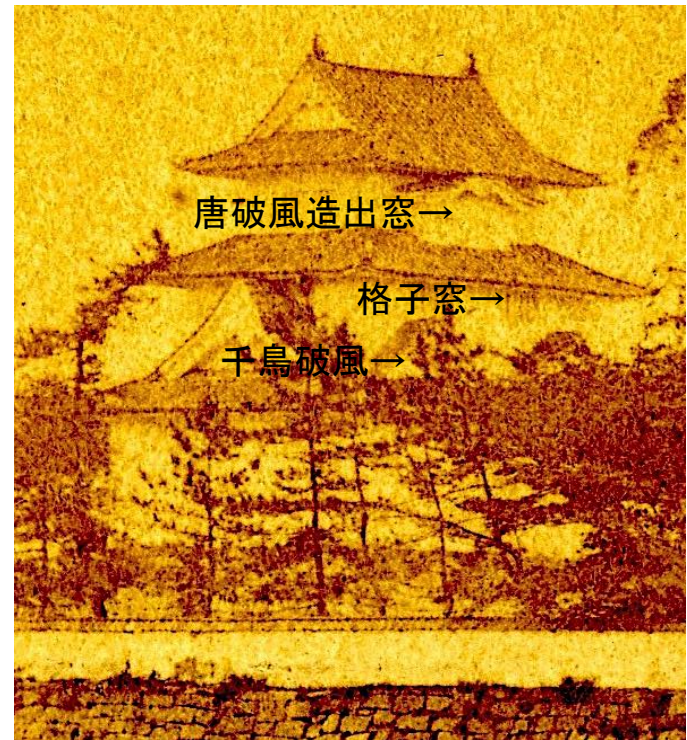
巽櫓から坤櫓を考察

文献調査や現地測量、トレンチ調査から、坤櫓と巽櫓は1669年の焼失後に、同じ大きさ(6間×7間)で再建されたことが明らかになった。
巽櫓の古写真を参考に、坤櫓の復元を進めることが可能。

【巽櫓】



「旧福井城本丸巽三重櫓」
(福井市立郷土歴史博物館所蔵)



「野路家写真帖八拾参番右」
(福井市立郷土歴史博物館所蔵)

簡易CGを作図し、巽櫓の概算高さを考察
⇒ 坤櫓の高さの参考に